



平成 29 年 11 月 10 日

各 位

会 社 名 大黒屋ホールディングス株式会社  
 代 表 者 名 代表取締役社長 小川 浩平  
 (コード番号 6993 東証第二部)  
 問 合 せ 先 財務経理部長 大村 正文  
 (TEL. 03-6451-4300)

平成 30 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異  
 及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成 29 年 5 月 15 日に公表いたしました平成 30 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想値と本日公表の実績値において差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、平成 29 年 5 月 15 日に公表いたしました平成 30 年 3 月期の通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので併せてお知らせいたします。

記

1. 平成 30 年 3 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想値と連結実績値との差異  
 （平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 10,801	百万円 855	百万円 668	百万円 165	円 銭 1.80
今回実績値 (B)	9,674	377	136	△130	△1.34
増減額 (B-A)	△1,127	△478	△532	△295	△3.14
増減率 (%)	△10.4	△55.9	△79.6	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 29 年 3 月期第 2 四半期)	10,446	165	△205	△225	△2.84

2. 平成 30 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 23,281	百万円 1,957	百万円 1,648	百万円 555	円 銭 6.00
今回修正予想 (B)	20,934	1,329	702	10	0.10
増減額 (B-A)	△2,347	△628	△946	△545	△5.90
増減率 (%)	△10.1	△32.1	△57.4	△98.2	△98.3
(ご参考) 前期実績 (平成 29 年 3 月期)	20,556	493	△180	△287	△3.56

### 3. 第2四半期連結累計期間における差異発生の主な理由

連結子会社である株式会社大黒屋（以下、「大黒屋」といいます。）においては、前年度に実施した商品在庫の洗替による緊急措置の結果、在庫の減少となりました。今期は、当該在庫の積み増しに努力はしておりますが、十分な水準に至っていないことから、店舗売上高は、前年比では改善（16.6%増）しているものの計画比373百万円減となりました。また、企業間取引である中古ブランド品オークションでの卸売（本部売上高）を控えたことによる、本部売上高が計画比201百万円減となったことで、売上高は計画比630百万円減となりました。さらに売上総利益率は、2015年9月期の水準を目標としておりましたが、前年同時期からは3.1%改善しているものの、計画水準まで戻っていないことが主な要因となり営業利益は計画比329百万円減（売上高の減少に伴う金額198百万円減、売上総利益率の低下に伴う金額183百万円減、販売費及び一般管理費の節約52百万円）となりました。経常利益につきましては341百万円減となりました。

また、英国SFLグループにおきましては、SFLは店舗を含めたリストラクチャリングを実施した影響から、売上高の回復に時間がかかっていることにより、売上高は、質売上、小売り及びゴールド取引が計画に未達となったことから計画比485百万円減となりました。営業利益は計画比175百万円減（売上高の減少に伴う金額281百万円減、売上総利益率の改善に伴う金額109百万円増）となりました。経常利益につきましては、230百万円減となりました。

### 4. 通期連結業績予想の修正理由

平成30年3月期通期の業績につきましては、主要子会社である大黒屋における当年度の業績予想は、新規出店7店舗を想定していたところ、第2四半期までに、博多店及び池袋西口店を出店し、11月11日に銀座中央通り店をオープンする予定となっております。しかしながら、その他の4店舗については、株式会社ブランドオフトの業務提携が不調に終わり店舗の再編による出店ができなかったことや、新規の好立地の物件にめぐりあえていないことから、当年度中の出店の可能性が低くなっております。よって、当該新規出店相当の売上高及び銀座中央通り店のオープンが当初予測に比して40日程度遅れたことによる売上高相当の合計で下期売上高を754百万円下方修正いたしました。なお、既存店につきましては、平成29年10月23日付で開示いたしましたように、リファイナンスにより、在庫積み増しのための運転資金を確保したことから、既存店の売上高はさらなる増収を目指しておりますが、従来通りとさせていただきます。売上高の下方修正の結果、営業利益は、売上高の減少に見合う修正を行っております。

また、平成29年10月に実施いたしました、リファイナンスに伴い銀行手数料184百万円が計上されていることにより、経常利益以降の修正を行っております。

英国SFLグループの業績につきましては、上期の実績に基づき、下期売上高464百万円を下方修正し、現状の状況を踏まえた業績に修正いたしました。

以上